# 株式市場新聞

www.marketpress.jp

2022
4/18
月曜日

発行元　株式会社 株式市場新聞社
〒530-0005
大阪市北区中之島４－２－２８甲南アセット中之島ビル
TEL 06-6105-1904


日経平均株価
２万７０９３円１９銭
▼７８円８１銭（前日比）
ＴＯＰＩＸ
１８９６．３１
▼１１．７４（前日比）

## 主力銘柄次期予想は!?

## 3月期通期決算発表スタート

4月21日の**日本電産**（6594）を皮切りに3月期企業の通期決算発表がスタートする。既に発表が一巡した2月期企業は百貨店を含めて小売りでは、新型コロナによる活動自粛から脱却して次期は大幅な増益を予想する企業が少なくなかったが、電子部品や自動車など輸出系が多く占める3月期企業はロシア軍のウクライナ侵攻に端を発したコモディティー価格の上昇など不透明要因も多い。そのようななかで、好決算を発表する銘柄に注目したい。

### 日本電産大幅増益なるか

3月期企業に先駆けて発表された2月期企業では8日発表の**安川電機**（6506）が23年2月期の連結営業利益で前期比36・2％増の720億円とアナリストコンセンサスを上回る予想を打ち出している。発表後、株価は全般の地合い悪で売られていたが、3月期についても好調な見通しを打ち出した銘柄の売られた場面は押し目買いの好機になる可能性があろう。

日本電産については集計中の22年3月期は連結営業利益で前期比18・8％増の1900億円で着地した模様。EV向けトラクションモーターの拡大加速に加えて、コスト増に対応した価格転嫁も進むことから次期の22年3月期は2380億円程度がコンセンサスとして見られているようだ。

同じく21日発表の**ディスコ**（6146）の22年3月期は前期比56・9％増の833億円と大幅増益着地ながら、次期はユーザーの在庫調整の影響が顕在化すれば減益予想となる懸念がある。

ゲームでは25日が**コーエーテクモホールディングス**（3635）、5月10日が**任天堂**（7974）、11日が**カプコン**（9697）。どの企業も好調な予想を打ち出す可能性が高い。

発表日は未定ながら**ホンダ**（7267）と**ソニーグループ**（6758）は両社が合弁で進める次世代EVの更なる具体的内容が明らかになることを期待したい。

３月期決算発表が始まる

### 日経平均日足チャート

# 前週の動意銘柄

## 東電HD大幅高で新値

### 岸田首相原発も最大限活用

週明け11日、**東京電力ホールディングス**（9501）が大幅高で年初来高値を更新した。前週末の記者会見で岸田首相がロシアによるウクライナ侵攻の追加制裁を表明、ロシア産石炭の輸入を禁止する一方、電力需給の逼迫を避けるため「再生可能エネルギーや原子力などエネルギー安全保障、脱炭素の効果が高い電源を最大限活用する」と力説したことを受け、原発再稼働への期待から買いを集めた。

**安川電好業績も売り**

**安川電機**（6506）が朝高のあとに売られ反落した。同社は8日の取引終了後、23年2月期の業績予想を発表、連結営業利益で前期比36・2％増の720億円とアナリストコンセンサスを上回る予想を打ち出したものの、原燃料コスト上昇や中国経済の状況、ウクライナ情勢など外部環境の不透明要因が多く、懐疑的な見方から売りに押されているようだ。

**BlueMeme提携**

**BlueMe**（4069）がストップ高。三井情報との資本業務提携を発表した。三井情報が支援する三井物産グループ全体のDX推進に際し、ローコード開発に関するBlueMemeのノウハウを活用することで、短期間かつ少人数のシステム開発を実現する。

## 海運値下り率トップ

12日、**商船三井**（9104）、**日本郵船**（9101）、**川崎汽船**（9107）が大幅安、海運セクターが値下がり率トップになった。中国発米国向け海上コンテナ輸送が22カ月ぶりに減少したと伝わった。アジア発米国向け全体では高水準の輸送が続くが、中国は新型コロナ感染拡大の影響で、先行き不透明感も出ているとしており、海運市況のピークアウトからも来期以降の業績への影響を警戒した売りが広がった。

**ローツェ5期連続最高益**

**ローツェ**（6323）が急騰。1233年2月期の連結営業利益は247億3300万円（前期比56.4％増）と大幅増増益で5期連続最高益更新を見込んだ。旺盛な半導体関連設備投資需要に支えられ業績拡大が続き、期末一括配当も110円（前期65円）と前期に続いて大幅に増配する。

**アークランド3連騰**

**アークランドサカモト**（9842）が3連騰。23年2月期の業績予想を発表、「収益認識に関する会計基準」適用のため前期と比較できないが、連結営業利益で256億5000万円と前期の209億1900万円に対して22％超の大幅増益となることが好感された。

**公開価格の3・2倍**

**サークレイス**の初値

13日、前日に東証グロース市場に新規上場した**サークレイス**（5029）が公開価格7220円の3・2倍となる23220円で初値が生まれた。「Salesforce」を中心にクラウドシステムの導入運用支援・自社開発のクラウドシステムの提供を行う。

## 正直じいさんの株で大判小判

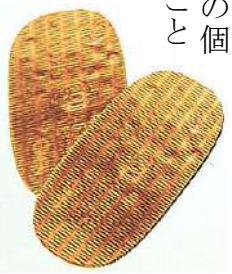
### 金利にらみで小型グロース

前週の東京市場は反発。日経平均は週間で107円上昇し、3週ぶりに陽線を引いています。前半は米長期金利上昇への警戒感から下値を探りましたが、米3月消費者物価指数（CPI）が反転の契機になりました。大幅な上昇だったものの、エネルギーと食品を除いたコアCPIの伸びが鈍化したことがインフレピークアウトと受け止められ、い戻しが優勢になりました。13、14日の2日間で800円を超える上昇となり、米金利が再び上昇に転じたことから週末は反落しましたが、朝安のあとは下げ渋り2万7000円台をキープしています。

一旦底入れし引けています。

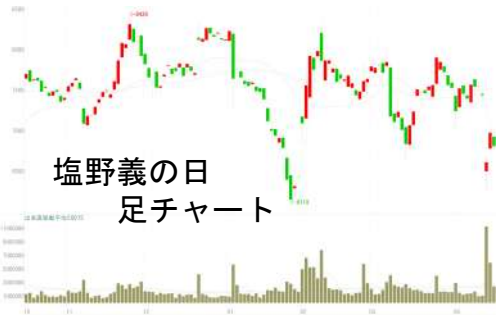
月期決算発表を前に動きづらく、2月末は反落しましたが、決算銘柄と材料株の個別物色で幕間をつなぐことになりそうで、米長期金利をにらみながら、小型グロースの出直りを狙う考えです。

**花咲翁**



# 塩野義下落率トップ

## 新型コロナ飲み薬胎児に奇形




１３日、**塩野義製薬**（４５０７）が急落、東証プライム市場で下落率トップになった。厚生労働省に製造販売承認を申請している新型コロナウイルス向け飲み薬について、動物実験で胎児に奇形を引き起こすリスクが確認されたことが分かったと伝わった。承認を前提に１００万人分を供給することで厚労省と基本合意しているが、承認審査長期化など先行き不透明感を嫌気した売りがかさんだ。

## 日置電機増額配当引上げ

**日置電機**（６８６６）がストップ高。２２年１２月期の業績予想について、連結売上高で３１５億円から３４０億円（前の期比１６・０％増）、営業利益で６１億８０００万円から７０億１０００万円（同２１・９％増）へ上方修正、年間配当を１４０円から１６０円（前期１６５円）へ引き上げた。自動車と電子部品業界の設備投資が積極的で、バッテリー、モーター、電子部品関連の計測器の需要が引き続き高い水準で推移した。

## アダストリア52％増益

**アダストリア**（２６８５）が大幅反発。同社は１３日の取引終了後、２３年２月期業績について、連結売上高で前期比１４・１％増の２３００億円、営業利益で５２・３％増の１００億円と大幅増収増益を見込んだ。在宅時間の伸長によるワンマイルウェアや生活雑貨類の需要増加、アウトドア人気の高まり、ビジネスシーンにおける服装のカジュアル化、ＥＣ市場の拡大などを見込んでいる。

## スノーピーク急反落

**スノーピーク**（７８１６）が急反落。１３日に発表した月次報告で、３月度の連結売上高が前年同月比２２・６％増だったが、１月の６３・１％増、２月の４４・０％増から月を追って伸びが鈍っていることがネガティブ視された。


4月30日（土）第7回 株式セミナー in大阪

ロシアとウクライナ戦争で株式市場はどうなる？

主催：株式市場新聞　時間：１４時～１６時　受付・開場１３時　参加料：無料　マスク着用必須！

申込はTEL06-6105-1904またはinfo@marketpress.jp まで

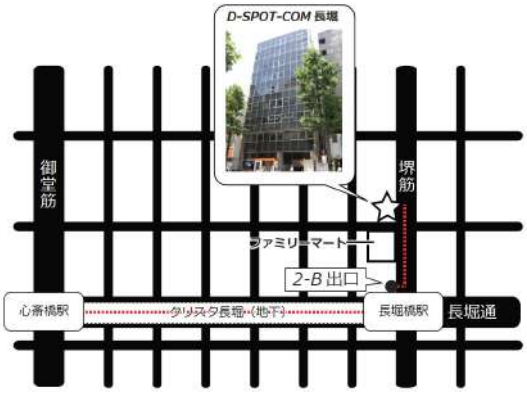
225先物に振り回されない株式投資のテクニック

これから上昇する特選銘柄5銘柄を教えます‼

数々の株式コンテストで優勝した岡山憲史さんが登壇

岡山憲史氏（株式会社マーケットバンク代表）１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第一回Ｓ１グランプリ」約１万人の参加者の中から優勝のほか、多くのコンテストで優勝。１カ月間の３銘柄合計パフォーマンス１５５％と断トツ。週刊現代や週刊ポスト、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行い、個人投資家に投資情報サービスを提供。

堺筋線・長堀鶴見緑地線長堀橋駅　2-B出口　徒歩１分
御堂筋線心斎橋駅　クリスタ長堀経由　徒歩５分




会場：D-SPOT-COM長堀セミナールーム

大阪市中央区南船場2丁目3-6第一住建長堀橋駅前ビル1階

【TEL】06-6105-1904

＊セミナー参加者に大変便利なポケットサイズのカレント経済ノート「主要経済指標」定価1,000円を参加者全員に差し上げます。

# ～決算情報～

## 住江織物

## 第3四半期は2．3%増収

### リサイクルカーペットが国内で好調

**住江織物**（３５０１）の２２年５月期の第３四半期累計（６～２月）決算は連結売上高で５９７億５９００万円（前年同期比２．３%増）、営業損益で３億１１００万円の赤字（前年同期６億８００万円の黒字）となった。

インテリアは業界トップクラスの再生材比率８４%を達成した水平循環型リサイクルカーペット「ＥＣＯＳ」が国内で好調に推移し、自動車・車両内装事業も海外で伸びたものの、機能資材事業では特需のあった空気清浄機向け消臭フィルターの反動減や、繊維系暖房商材の輸入にかかる費用の高騰、生産移管を進める工場再編費用の影響などを受けた。

通期は売上高８３９億円（前期比５．３%増）、営業利益４億２００万円（同６１．７%減）の従来予想を据え置いた。

# チタン株が上値追い

## 原料鉱石の高騰で買い戻し

**大阪チタニウムテクノロジーズ**（５７２７）のチタン株が買われた。**東邦チタニウム**（７２６）や酸化チタンの需要増から原料鉱石が高騰していることが材料視された。大阪チタニウムは、１４日、４日線割れとなる１２７２円まで売られていたことから短期的な売り方の買い戻しも上値追いの要因となっている。

## サーバーワクスS安

週末１５日、**サーバーワークス**（４４３４）が急反落、ストップ安まで売られた。２３年２月期の業績予想を発表、営業利益で４億２９００万円（前期比３２．８%減）と大幅減益予想であることが嫌気された。子会社の事業立ち上げに関連する人件費など投資負担を織り込んだ。

# ファストリ円安で増額

## 前週の動意銘柄

**ファーストリテイリング**（９９８３）が大幅に３日続伸。同社は１４日の取引終了後、２２年８月期の業績予想の修正を発表、連結純利益で１１７５０億円から１９１００億円（前期比１１０．９%増）へ上方修正した。円安が進んでいることから、金融収益・費用の増加を想定に含めたため。収益上振れに伴い２６０円としていた第２四半期末配当を２８０円に引き上げ、年間配当は５６０円（前期４８０円）に増配する。

## 佐鳥電は営業益3倍

**佐鳥電機**（７４２０）がストップ高。同社は１４日の取引終了後、２２年５月期の業績予想の修正を発表、連結売上高で１２４００億円（前期比２０．９%増）へ、営業利益で１８億円から２６億円（同２．９倍）へ上方修正した。リモートワーク需要による電子部品の販売や調達マネジメントサービスなどの更なる売上増に伴う売上総利益の増加が寄与する。

# 転ばぬ先のテクニカル

## 変化日通過で重要週

先週の東京株式市場は反発しました。週初は続落しましたが、米３月消費者物価指数のコアＣＰＩが鈍化したことから過度なインフレ警戒が緩みました。

３月９日～２５日の上昇幅の半値押し近辺で下げ止まり反発。日柄変化日を安値圏で通過したことで今週は上昇期待したいところですが、まずは２万７２７０円近辺の７５日線を突破できるのかどうか。ここを抜けられない場合は３月高値から三段下げに向かう可能性が高まり、その場合は２万５５００円近辺（日足の窓埋め）まで覚悟せねばならないでしょう。

そういう意味では今週は正念場を迎えます。一目均衡表・日足では雲上限を抜けてきました。一方、週足では雲下限で下げ止まった形です。週足基準線が７５日線と同位置にあるためにこれらを抜くことが重要で、抜ければ調整完了サインと考えられます。

日々勇太朗

# チャートから読む 騰落銘柄

## 助川電気工業(7711)

２月２４日の７８７円を底に上昇し、４月に入って出来高を伴い１０００円台乗せ。半導体製造装置向け製品の伸びが想定超で、核融合発電に絡む材料も内包。昨年１０月１８日高値１１７３円目指す展開期待。

## 東京製鐵(5423)

２５日線割れから切り返し、週末に長い陽線を立てる。鋼材需要がタイトに推移するなか値上げ浸透し収益性はさらに改善。ＰＥＲは５倍割れと割安感が強く、３月の戻り高値１２２５円抜けから一段高へ。

## ランサーズ(4484)

出来高を伴い４月６日に４５４円まで急騰後に利益確定売りにスピード調整。２５日線なら２９０円あたりが下値メドだが、その下は２５０円近辺までフシはない。１００万株超の買い残も重石となろう。

## テラスカイ(3915)

先行投資負担で２３年２月期利益急減を予想。急落のあとは下げ渋るも、２５日線を大きく割り込み日足が陰転へ。大勢下降トレンド転換できず、１月に付けた上場来安値１３０２円割れ回避へ正念場続く。

※チャートは日足

# 家と人生のプロがいる。

相続、介護、転勤など人生の転機は、住まいの転機です。

そんなとき、大和ハウスは住まいのプロとしてはもちろん、
1人1人の人生、1つ1つの家族の人生にまで
寄り添えるプロでありたい。

お客様が住まいと接点をお持ちになったところから
長く一緒に歩んでいきます。

**人・街・暮らしの価値共創グループだからこその総合力**
創業60年。180万戸を超える供給実績と、幅広い提案。

**多分野の専門家による360°チームケア**
税理士・司法書士など多くの分野の専門家と連携。

**エンドレスサポート**
お客さまを最もよく知るパートナーとして末長くそばに。

住みかえは大和ハウスグループで

Livness

[リブネス]

大和ハウス工業株式会社　日本住宅流通株式会社　大和ハウスリフォーム株式会社　大和ハウス賃貸リフォーム株式会社　株式会社コスモスイニシア　大和リビングマネジメント株式会社　大和ライフネクスト株式会社　株式会社デザインアーク

Daiwa House Group

大和ハウス工業株式会社〈不動産ストック事業〉
www.daiwahouse.co.jp

0120-413-109（ヨイス トック）　リブネス　検索

東京本社 リブネス事業推進部
東京都千代田区飯田橋3丁目13番1号 〒102-8112
Tel 03-5214-2424

本社 リブネス事業推進部
大阪市北区梅田3丁目3番5号 〒530-8241
Tel 06-6225-7838

潮流

# 円安はどこまで進む？

## 賃金上昇するまで利上げできず

岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

marKet bAnk

１３日の東京外国為替市場で円売り・ドル買いが加速し、１ドル＝１２６円３１銭と、２０年ぶりの円安水準を付けた。きっかけは日銀の黒田総裁が「現在の強力な金融緩和を粘り強く続ける」と発言したことだ。黒田総裁は既に大規模緩和方針の維持・継続を示しており、２月１４日には金利０．２５％で無制限に買い入れる国債の「指値オペ」を実施して、ゼロ金利＆低金利政策維持を明確に打ち出していた。

今回は、鈴木財務相が「為替の安定は重要。特に急激な変動は大変問題がある」と述べた後だけに市場が反応した。黒田ライン（１２５円８６銭）を超えると投機的な円売りが入った。日銀の緩和姿勢とは対照的に、米連邦準備理事会（ＦＲＢ）の利上げは加速する。米金利先物の値動きから金融政策を予測する「Ｆｅｄウオッチ」では５月のＦＯＭＣで０．５％の利上げがある確率が８５％に達した。「インフレは一時的」と主張し続けてきたパウエルＦＲＢ議長がインフレ退治に積極的になったことがドル高・円安を加速させた。

ＦＲＢは５月中旬にも保有資産を圧縮する量的引き締め（ＱＴ）にも着手する。削減枠を段階的に月９５０億ドル（約１１兆９０００億円）まで広げる。これで、量的緩和が演出した極端な「カネ余り」は終幕に向かう。また、物価変動を加味した米国の実質金利がなおマイナス圏にあることなどを考えれば、ドルが買われることが予想される。実質金利がプラス圏に転換するまでドル高・円安は進むだろう。

また、日本では円安で輸入コストが膨らみ、企業収益が減少に向うことが考えられる。企業物価と消費者物価の上昇率の「ギャップ」の規模は米国の４倍超だ。製造業は最大１４兆円の減益要因となる。

企業は商品価格の値上げを余儀なくされる。なので消費者物価は上昇する。米国は景気が堅調で賃金も上昇しており、利上げを行なっても景気後退に向う心配はない。一方、日本の景気は弱く、未だに需給ギャップはマイナスだ。賃金は２０年以上上昇していない。デフレから脱却できずに低成長が続いている。このような状況で利上げはできない。日本の経済力が強まり、景気が上向いて、中小企業を含めた賃金の上昇が実現するまで黒田総裁は、利上げはできないと考えている。

潮流銘柄は**日揮ホールディングス**（１９６３）、**ＩＮＰＥＸ**（１６０５）、**商船三井**（９１０４）。

## 輸入コスト増で企業収益減少

# ヒンデンブルクの予兆、再び点灯

## ５月ＦＯＭＣ前に波乱含み？

敏腕先物ディーラー

**ハチロクの裏話**

**ハチロクのプロフィール**

証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、２２５先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における２２５先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

先週の日経平均は前週末比約１０７円高と週足で３週ぶりに陽線となった。週初は米長期金利の上昇で大幅に売られたが、週後半に円安が進むと株価は戻した。

円安が株価に与える影響は専門家でも見方が分かれている。ＱＵＩＣＫの株式月次調査４月分によると「輸出企業中心に企業業績を押し上げプラスに働く」が３０％、「内需企業中心に企業業績を押し下げマイナスに働く」が２７％、「プラス面とマイナス面が作用し影響は小さい」が３１％である。証券会社と機関投資家への調査だが、運用者でも影響を見極め予ねているのが現状のようだ。

筆者は今回の円安は米国やＥＵが金利引き締めに舵を取っているにも関わらずに日銀は現状維持と方針を決めており、円安傾向は続くと思われこのトレンドの変化は日本企業全体としてはマイナスに作用すると考えている。最近の株価の動きは円安と関連しているように見えるが、ウクライナ問題で売り過ぎたポジションの買戻しと思われ、リバランスの域を超えないと考える。

ヒンデンブルクの予兆出ると１カ月以内に急落する？

NYダウXの日足チャート

今後、政府や日銀が円安への対応を放置しておくと１３０円台が見えてきて、円売りに拍車がかかる可能性もある。ウクライナ問題の長期化が予想される中、資源価格の高騰は続いており、急激な円安は日本企業にとってマイナス要素の方が多い。

中期投資であれば日経平均よりも円建てＮＹダウ投資の方が妙味はありそうである。その米国市場であるが相場の急落を予言する「ヒンデンブルクの予兆」と呼ばれる警戒サインが約２カ月ぶりに点灯した。「ＮＹＳＥ総合指数が５０日前を上回る」や「５２週高値・安値の更新銘柄数がともに当日の値上がり銘柄と値下がり銘柄数の合計の２・２％以上になる」など４条件を満たすと点灯する。

日経225先物日足チャート

点灯すると１カ月以内に株価が急落するという。点灯すると必ず下がるというものではないが、急落した時を見ると必ずこのサインが点灯しているということだ。５月のＦＯＭＣでは０・５％の利上げが織り込まれていると思うが、その前後で波乱含みの相場になる可能性があることに注意したい。

今週の相場は本格的な決算発表を控え方向感の無い展開を想定する。売買代金も低迷しており先物主導で乱高下しそうである。チャート的には三角持ち合いの形になってきており上値は２万７５００円、下値は２万６５００円を想定する。

（ハチロク）

# 星野三太郎の 株街往来

## ～スマホに依存した生活～

先月末はスマートフォンの充電ができなくなり、慌てて修理業者に持ち込んだ。

十年近く前の２台前の機種で携帯キャリアショップに故障で持ち込んだときは、保証期間内だったので修理は無料だったが、一週間後に端末が戻ってきたときは、基盤を全て交換したとのことで、アドレス帳など端末内のデーターが全て消えてしまった。

当時はアドレス帳以外なら端末の個人データーはインターネットブラウザのブックマーク程度なので後悔はしなかったが、現在の端末には、銀行や証券会社アプリ、記事投稿画面のログインデーターなど極めて重要なデーターが万歳なので、これが全て消えるとなると復元に苦労することになる。

仕方がないので、大阪駅前の修理業者に持ち込むと、１万円程度の費用がかかるものの、分解して充電端子の部品交換だけで済むというので、２時間程度で修理を終えた。

今回の故障で改めて、痛感したことはスマートフォンに日々の生活を依存し過ぎていること。端末データーのバックアップは需要だが、ある程度、アナログ的なものに戻すべきと感じる。

# New product

## TOA 聞取りやすく高い操作性

### 「卓上型リモートマイク」を発売

RM－５００

ＴＯＡ（３６４５）は卓上型リモートマイク「ＲＭ－５００」を発売する。

「ＲＭ－５００」は独自技術の音声明瞭化機能を搭載し、騒音が多い場所に対してマイク放送の聞き取りやすさを向上させた卓上型リモートマイク。放送先は最大８０まで登録可能であるほか、操作手順に合ったキー配置と、放送先の名称や放送中の状態が一目でわかる液晶表示により、高い操作性を実現。さらに、あらかじめ用意した音源を手軽に放送できるよう、外部音声機器のための専用端子とキーを搭載している。また、専用の壁掛金具「ＷＢ－ＲＭ５００」を用いることで、壁へ取り付けて使用することも可能。

# 企業レター

## 7月からコラボイベント

### カプコン

### 「モンスターハンター」大阪府堺市と

**カプコン**（９６９７）の人気ゲームシリーズ「モンスターハンター」と大阪府堺市とのコラボレーションイベントが７月から開催される。

世界遺産である百舌鳥・古市古墳群や千利休により大成された茶の湯の文化など、歴史と伝統を若年層に発信し、文化振興と観光需要創出を目指す堺市から、同じ大阪に拠点を置き、ゲームコンテンツを活用した地域活性化において実績のあるカプコンと協力して、老若男女を惹きつける施策を展開したいとの依頼から今回の企画が実現。

７月上旬からさかい利晶の杜（大阪府堺市）において「モンスターハンター×堺の刃物展（仮称）」と称し、「モンスターハンター」シリーズに登場する刃長約２・２ｍにも及ぶ太刀を原寸大サイズで再現することに挑戦していく。

記者の視点

# 相場見通し

## 調整一巡も上値重い？

### 決算まで膠着感強い展開

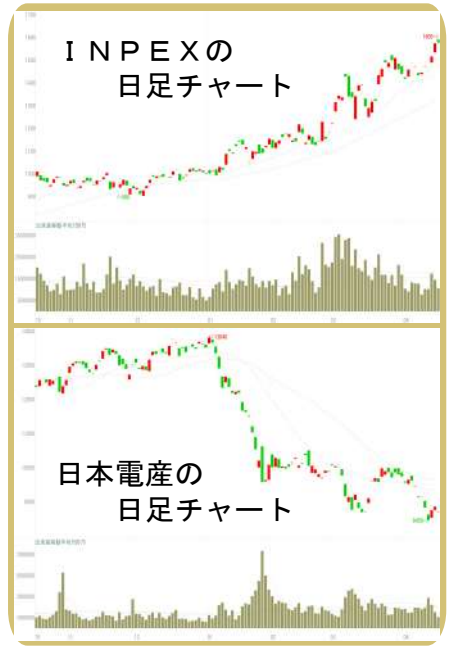
4月第3週の東京市場は日経平均で12日に2万6304円まで売られる場面があったが、その後は急速に切り返して2万7000円台を回復した。

米国の3月消費者物価指数（CPI）の内容が警戒されていたが、その内容は市場予想を0・1％上回る前年同月比8・5％だったものの、エネルギーと食品をのぞいたコアCPIは前月比0・2％と2月の0・5％から鈍化したことでインフレはピークを迎えているとの見方が拡がり、買戻し動きとなっている。3月末までの値上がりに対する半値押し水準以下で、25日と50日線割れまで売り込まれていたが、週後半での巻き返しで、調整一巡感がでたようだ。

イベント通過でアク抜けとなったが、ウクライナ情勢に大きな動きがなく、今週後半から始まる国内での3月期決算発表を控えていることを考慮すれば、週前半は手掛かり材料難のなかで膠着感の強い展開が予想される。

個別ではWTI原油先物が1バレル92ドル台まで下落した後に再び100ドル台を回復したことを受けて、INPEX（1605）が年初来高値になるなど資源株が再び強い動きとなったが、原油価格の戻りに勢いが感じられない状況では上値は限定的かもしれない。

一方、決算発表では21日の日本電産（6594）を皮切りにスタートする。輸出系企業で注目されるのは、ここへきての急速な円安。円安はプラスに働くが、現状では供給不足への不安が高いだけに、好決算発表でも、それが純粋に評価されるかは、個別企業毎で事情が異なりそうだ。




## 当面のスケジュール

- 15日　米3月鉱工業生産・設備稼働率(22:15)
- 18日　3月首都圏新規マンション発売(14:00)
  中国月鉱業生産、都市部固定資産投資、小売売上高、中国1-3月期GDP(11:00)
  イースターマンデー-により欧州各国が休場
- 19日　IMF世界経済見通し発表
  米3月住着工件数、米3月建設許可件数(21:30)
- 20日　3月貿易統計(8:50)
  米3月中古住宅販売件数(23:00)
  米20年国債入札
  G20財務相・中央銀行総裁会議(ワシントン)
- 21日　G7財務相・中央銀行総裁会議(ワシントン)
- 22日　3月消費者物価(8:30)
- 22日　フランス大統領統領選挙、決選投票

## 編集後記

ウクライナ情勢、インフレ動向、外部環境に改善が見られないなか相場は大きく動いた。3月中旬に底入れした日経平均は下旬にかけ3000円幅で上昇、その後、上げ幅の半値水準まで押し目を入れ切り返している。配当権利取りと再投資期待の年度末特殊要因が株価を押し上げ、ショートに傾いたポジション調整の買戻しが下値を支えた。

今後は企業業績が相場の行方を決めることになるが、急激な円安、資源高が続くなか、安川電機の反応を見る限り市場は判断しあぐねているようだ。

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。